

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部外国人留学生海外推薦入学制度を改善する(全学で検討されている韓国の高校との推薦入学制度導入の具体的な検討、多様な国籍の留学生受け入れを促進する推薦対象高校の拡大の検討)。	→留学生の受け入れ対象国数(現状の3カ国を、5カ国・地域以上に拡大)。	D	D	B	B	B
2. 留学生と日本人学生の交流を促進する留学生懇談会などを充実させる。	→外国人留学生と日本人学生の懇談会・懇親会の開催回数(年間2回開催)。	A	A	A	A	A
3. 海外ゼミとのゼミ間交流を促進させるための制度を創設する。	→海外の大学と交流ゼミ数(毎年1ゼミ以上の交流の実現)。	A	A	A	A	A
4. 経済学部生の交換留学・認定留学等の拡大を図るため、外国語の授業改革とともに、専門教育における外国語授業の拡大や、留学生に対するカリキュラムの弾力化、留学に関する積極的な情報提供などを行うものとする。	→TOEIC600点以上の学生数(600点以上を獲得する2年生を30人以上)。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外推薦入学制度は韓国の高等学校5校および2校の日本語学校を対象とし、2013年度、2014年度と1名ずつの入学者があった。また2015年度へ向けては外国人留学生試験海外試験地(韓国ソウル)を実施する運びとなった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 入試検討委員会において、外国人留学生試験での独自試験を廃止し日本留学試験スコアによる選考方法を導入したことにより目標達成が可能となった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度より始まる外国人留学生試験海外試験地(韓国ソウル)によって、留学生の受け入れを増やす。また韓国以外の海外試験地の追加の際は導入を積極的に検討する。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 執行部により毎年、留学生懇談会を実施しているが、2012年度よりそれに加えて、学生有志によるインターナショナルサークルの立ち上げを行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 懇談会では意欲的な留学生の意見を聞くことができ、追跡調査と併せて日本留学試験導入後の留学生(2011年度以降)については比較的優秀な学生が多いことなどが判った。ただし懇談会は一過性のものであり開催時期、回数は検討が必要である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も留学生懇談会を実施するとともに、学生有志によるインターナショナルサークルを充実させていき、継続するものとする。またインターナショナルサークルの活性化・継続のための支援を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外ゼミとの交流については指導教員に委ねる範囲が大きいですが、JASSOの留学生支援制度が大きく貢献しているものと思われる。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 過去2年間で、4つのゼミが韓国、中国、カンボジア、ロシアの各大学に行き、交流を行い成果をあげている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も海外のゼミとの交流を継続し、訪問地域を広げていくために学部独自の補助制度の拡大を予定している。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 毎年1年春学期および2年秋学期にTOEIC-IPの実施を継続している。また授業では2013年度より「キャリアTOEIC講座(秋学期)」を設けるなどの取り組みを行った。 また英語による専門教育の授業を2013年度に2つ(Topics in Economics in English Japanese and Asian Economics)を開講する運びとなった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か TOEIC600点以上の2年生は43名である。TOEICのスコアの平均は423.5点で、1年間で12.2点上昇した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か TOEICによる教育体制の継続および英語による専門教育の授業(Topics in Economics in English Japanese and Asian Economics)の継続と履修者の検証。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	73	69	59	57	43	40	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	2.5	2.4	2.1	2.0	1.5	1.4	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	9	11	12	19	20	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	19	17	31	37	68	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.3	0.4	0.4	0.7	0.7	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.6	0.6	1.1	1.3	2.4	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	1	1	2	1	0	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	3	4	3	3	3	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	43	48	58	61	61	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	1	0	6	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	9.3	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。